

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

◎カラー特集 課題別視察

マクロコズム 2002.1



vol. 44

(財)青少年国際交流推進センター

## テーマを持った交流を！～充実した課題別視察の勧め～

広く国際交流活動が行われるようになるに従って、交流の継続性と実質的な繋がりが求められるようになりました。では、どのようにプログラムが互いに満足度が高くなるのでしょうか。より具体的であり深く掘り下げるためには、どのような工夫が必要なのでしょうか。その一つとして、それぞれの興味ある分野についての情報交換ができる課題別視察は大切なプログラムです。訪問先の事前情報の提供、懇談やコミュニケーションのセッティングをどのようにしたら効果的な情報交換ができるのか、など充実した内容にするためには食事の手配から交通手段にいたるまで様々な配慮が必要となります。

今回は、第28回「東南アジア青年の船」と第14回「世界青年の船」の国内受入れプログラムの課題別視察でお世話になった訪問先紹介とともに、交流の場の作り方について考える場にしてみたいと思います。

### ボランティア（世代間交流）

〔東京都が実施しているシルバーボランティア制度が導入されている活動現場に伺いました。〕



▲ 井の頭自然文化園にて  
（第14回「世界青年の船」）



▲ 多摩動物公園のシルバーボランティアの皆さんと  
（第28回「東南アジア青年の船」）

### 福祉（明るい笑顔の素直な交流が自然でした。）

▼ 世田谷区立砧工房（世界船）



▼ 太田区立くすのき園（東ア船）



**文化**〔伝統文化には、その国の人々の考え方が表現されています。〕



茶道（裏千家東京道場にて、東ア船）「世界青年の船」でもお世話になりました

「歌舞伎座」の前にて（世界船）



**宗教**〔日本人には宗教心がないと言われがちですが、皆さんはどのように思われますか〕



禅（永平寺別院長谷寺にて）  
（東ア船）

**生活**

〔日常生活の中で非常時は、なかなか想定できませんが…〕

本所防災館にて地震非難訓練を体験（世界船）  
（東ア船でも訪問しました）



## テーマを持った交流を！（課題別視察）

### 教育

〔日本が誇るべきことに、基礎教育の普及があります。識字率世界一の実績は、情報を受け取る基礎力を示します。受け取った情報をどのように活用していけるかは最も大切なことでしょう。〕



▲ 新宿区立市谷小学校（東ア船）

◀ 新宿区立早稲田小学校（東ア船）

新宿区立戸塚第三小学校（東ア船） ▼



▼ 毎日新聞社にて（東ア船）



▲ 新宿区立四谷第一小学校（世界船）  
「新宿御苑」での特別交流活動

### マスコミ

〔情報の伝達は現代社会において最重要課題です。ITの普及につれて、その在り方は大きく変化しています。〕



## ヤングリーダーズ・フォーラム

前号に「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業の実施について紹介しましたが、その特色は二つのフォーラムにありました。参加青年は、9月27日の開会式、オリエンテーション、歓迎会に出席した後、9月28日から10月2日の期間は、基本的に新規招へい青年と既参加青年のグループに分かれてプログラムが実施されました。新規青年は、社団法人青少年育成国民会議が運営するワールドピースフォーラムへ、既参加青年は財団法人青少年国際交流推進センターが運営するヤングリーダーズ・フォーラムへ参加しました。ヤングリーダーズ・フォーラムは、1974年から開始された「東南アジア青年の船」と1989年から始まった「世界青年の船」の既参加青年が、共に参集し活動する初めてのプログラムでした。

ルネッサンスという言葉は、復興・復活・新生・再生という意味でよく使われていますが、本事業では、ギリシャやローマ文学の再発見に基づく14から17世紀の中世ヨーロッパで用いられた文化的復活という意味ではなく、「世界青年の船」

と「東南アジア青年の船」で育まれた精神を活性化させ、21世紀に直面する社会的、経済的、政治的变化に対応する優れた青年リーダーとはいかなるものか、またそう成り得るにはいかなる要素が必要であるのかを追求し再発見したいという意味で用いたものです。

20世紀が急激な発展のなかで、大量生産、大量消費、急激な人口増加、大量破壊、貧困、環境汚染として要約されるならば、21世紀は、どこを目指しどのようなリーダーが求められるのでしょうか。ヤングリーダーズ・フォーラムでは、このメインテーマを軸に、分野別に分かれて活動し、その答えを追求することを目的としました。

各コース（経済、教育、IT、リーダーシップ）は、外国招へい青年21人と、プログラムコーディネーター、受け入れ実行委員、日本参加青年及び（助）青少年国際交流推進センターの職員を含む日本人スタッフで構成されています。

### 主 要 内 容

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」	第5回「青年の船」30周年 ……14～15
ヤングリーダーズ・フォーラム概要 ……5～7	青少年国際理解セミナーのお知らせ
コーディネーター・参加者の声 ……8～9	自転車で世界一周した男 ……16～17
「世界青年の船」小学校訪問 ……10～11	13年度事業報告会のお知らせ ……18
宮城青年国際交流機構 ……12～13	ブロック大会・全国大会 ……19～20

### 〈表紙の説明〉

第8回「世界青年の船」団員  
矢口 稔さんの写真集より  
(ソモモンに青年海外協力隊員  
として赴任の際の記録より)

### 経済コースのねらい

戦後50年間、経済成長を中心に据えた発展を目指してきた日本が、バブル崩壊後もその進路を見つけられずにもがいている。その一方で、過去10年間、世界最大の開発援助供与国として、いわば日本型発展モデルを発展途上国に示してきた。日本経済が戦後歩んできた道のりと、現在の閉塞感、更に参加21か国の発展感と現在抱える課題を、特にライフスタイル、環境、格差、などに焦点をあてながら共有し議論する中から、21世紀に私たちが目指すべき経済・発展のパラダイムを模索する。

### 教育コースのねらい

コースの主な参加青年は、教師、生徒、青少年活動に密接に関連する職業に就いている。教育コースでは、将来を担う子供達と世界平和に向けて、どのような教育が求められているのかを話し合うことにした。

### ITコースのねらい

本事業で来日する外国青年（世界21か国）のITコース参加者は、それぞれの国で何らかの形でIT技術の研究または利用をしており、今回の本事業参加に際して、自国でのIT利用の現状についての調査・研究を行ってこようとしている。

日本青年代表を含めた参加者は、日本国内におけるIT技術の利用や将来の展望などを学びつつ、それぞれの国の現状についての意見交換を行い、ITによるネットワークを構築する上での問題点についての議論を行う。特にIT技術の国際的な

格差（Digital Divide）をいかにして解決できるかについての議論は、世界各地で活躍する青年の意見を集約し、解決策を探る場として有効に機能させることを目指している。その上で、今後IT技術を利用した国際的なネットワークを構築し、それを維持・発展させる方法を導き出すことをねらいとする。

### リーダーシップコースのねらい

3つの重要な社会的カテゴリー（政治、経済、教育）における、現在と将来のリーダーについて、意見交換を行う。政治におけるリーダーは、統治方法について定義し、経営におけるリーダーは、我々の生活様式を条件化し、学校や学校外での教育におけるリーダーは、我々の考え方を変えるであろう。

- ア 3つの分野（政治、経済、教育）における現代社会の状況をふまえ、過去と現在のリーダーを検証することにより、21世紀のリーダーに必要なとされる条件を考察する。
- イ リーダーシップの文化的相違点を明らかにし、多文化リーダーについて話し合う。
- ウ 上記の3分野においてリーダー育成の方法を共に考える。（又は、「世界青年の船」及び「東南アジア青年の船」のナショナルリーダーに必要な研修を考える。）
- エ 日本の若手の国会議員と共に、21世紀のヴィジョンを話し合う。
- オ 21世紀に必要なとされるリーダーシップのスタイルを提唱する。

### コースコーディネーター

コース名	氏名	参加事業（年）	職業又は活動
経済	松本 悟	東ア船（'84）	メコンウォッチ事務局長
教育	椿 景子	世界船（'89、'95、'98NL）	日本青年国際交流機構副会長
IT	川上 和久	国際青年育成交流派遣 '99（団長）	明治学院大学教授
リーダーシップ	森田 正英	東ア船（'84）、世界船（'93NL）& 国際青年育成交流派遣（'99団長）	日本青年国際交流機構副会長 SSEAYP International 事務局長

## ヤングリーダーズ・フォーラム コース別日程表

日程	経 済	教 育
9/28	合同ランチパーティー（外国青年と初顔合わせ）	
	自己紹介・アイスブレイキング 日本参加青年プレゼンテーション 青年の発表Ⅰ「わが国の発展像」	アイスブレイキング・オリエンテーション 基調講演：文部科学省 寺脇 研 審議官 「日本の教育システムについて」
9/29	青年の発表Ⅱ「わが国の発展像」 小グループでのディスカッション 「21世紀の経済・発展のパラダイム」 夕食後オプションでお台場ツアー	東京学芸大学教育学部附属高等学校大泉校訪問 学校紹介 探究科授業参観 昼食&懇談（生徒・教職員） グループ別都内活動（夕食） 日本の青少年の実態調査（渋谷・新宿・原宿等）
9/30	グループ別討論「参加青年の今後の協力について」	ディスカッション 賢人会議準備&懇談会
	全体プログラム・各コースからの発表 修了式・日本青年解散	
10/1	経済産業省訪問 市民バンク訪問	ディスカッション・プレゼンテーション・ワークショップ
10/2	宮が瀬ダム訪問 施設見学&市民グループとの懇談	ホールアース自然学校訪問
日程	I T	リーダーシップ
9/28	合同ランチパーティー（外国青年と初顔合わせ）	
	自己紹介・アイスブレイキング 講演：川上 和久 明治学院大学教授 ディスカッションⅠ	基調講演：武見 敬三 参議院議員 1. リーダーシップとは 1-1 発表 尊敬されるリーダー 1-2 プレインストーミングリーダーに求められるものとは
9/29	ディスカッションⅡ（オリンピックセンターにて） 秋葉原散策 ディスカッションⅢ	2. リーダーシップと文化差 2-1 リーダーシップの資質と文化差 2-2 発表 3. リーダーを養成するためには 3-1 リーダーを養成するためのプログラム
9/30	ディスカッションⅣ まとめ	ワークショップのまとめ
	全体プログラム・各コースからの発表 修了式・日本青年解散	
10/1	経済産業省通信ネットワーク機器室長との懇談 伊藤達也衆議院議員との懇談	講演：松野 明久 大阪外国語大学教授 講演：石塚 武夫 日本ラグビーフットボール協会 普及育成コーチ
10/2	法政大学ITPC（市ヶ谷校舎）訪問	衆議院議員との懇談Ⅰ 参議院議員との懇談Ⅱ

## ヤングリーダーズ・フォーラム「教育コース」より

教育コース：コーディネーター 椿 景子

今年度実施された「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい事業」は、外国招へい青年の来日直前に、アメリカで未曾有のテロ事件が起こり世界情勢不安定のなかでの実施となったが、結果からみると、この時期に世界各地からこれだけの青年たちが日本に集まり、このような事業が実施できたのは大変有意義なことであったと思う。

### 1. 参加者の特徴

本事業の最大の特徴は、新規青年と既参加青年を招へいしていることにある。特に既参加青年については再来日の機会を提供したこと、また各国同窓会組織に選考の段階から協力を依頼したこと、事後活動への意欲を高めることができた。

また、新規青年についても、参加国のほとんどが「世界青年の船」事業に関連した国でもあるので、本事業参加者も各同窓会組織へのアクセスは可能なため、事後活動への取り組みを期待できる。

### 2. テーマ別グループ

もう一つの特徴は既参加青年に関しては、従来の国ごと単位から、テーマグループ単位で行動するプログラムへと切り替えたことである。これにより期間中は討論、フィールドワーク、ワークショップを交えながら、一つのテーマに対してじっくりと時間をかけ議論を深めていくことで、目的意識がはっきりし、より専門性の高い交流事業が展開できたと思う。

さらに「東南アジア青年の船」「世界青年の船」の事業参加者が融合する、貴重な機会にもなった。

### 3. 教育コースのねらい

今回の教育コースのねらいは、各国の情報交換に留まらず、2週間の滞在そのものを「学習」過程として設定した。つまり参加者自らが学習体験をすることで、自国の教育現場を振り返り、またここで体験したものをそれぞれの現場で活用してもらうという点を重視した。実際、参加者のバックグラウンドも、教育関係者や青少年活動指導者、政府関係者、学生など千差万別であった。そのため訪問先も、学校現場をはじめ環境教育を実施している社会教育の現場や、繁華街に出て社会視察をするなど多岐に渡った。また函館市でのプログラムもその流れを活かした内容をご用意いただき、教育現場関係者との懇談会や、矯正教育の現場視察、また果樹園訪問など、大自然がもたらす教育環境を体験することができた。さらに、施設訪問に留まらず、各参加者が得意とする分野のワークショップを実施したりと、一方通行ではなく参加型プログラムを作るように心がけた。

その結果は、最終日に実施したグループ成果のプレゼンテーションに如実に表れていたと思う。教育コースのプレゼンテーションは、準備段階から全員が参加することを前提にし、PC発表やオリジナルの歌の披露、聴衆への問いかけ、室内を暗くして鳥の呼び笛（Bird Call）を鳴らしてのイメージトレーニングなど、短時間で趣向を凝らした内容をゼロから組み立てていったグループのエネルギーは素晴らしいものがあつた。

「教育とはいつでもどこでも誰でも経験してい



る学習過程 (Learning Process)」というのが、私たちがたどり着いた結論である。この結論を導き出したことこそが、今回の教育コースの大きな実りだったように思う。これだけ大きな成果を上げることができたのは、各参加者の意識の高さとチー

ムワークの良さからであろう。

まだまだ多くの可能性がある事業だからこそ、来年度も本事業の実施を心から期待し、またこの教育コースもぜひテーマの一つとして継続していただきたいと願っている。

## 二度目の船出 ～ヤングリーダーズ・フォーラムに参加して～

ITグループ 角谷 快彦

(第13回「世界青年の船」参加青年)

「世界青年の船」と「東南アジア青年の船」の既参加青年が参加事業、参加年度の枠を越えて会し、地球規模のテーマに沿って広大な「事後活動」の足がかりを作るルネッサンスプログラム。それはまさに僕が求めていたものだった。期末時期で忙しい中、会社を説得して、半ば強引に参加した。

参加したITグループは期待にたがわず、互いの専門を生かした中身の濃いディスカッションと具体的な行動指針、そして何より皆が打ち解け、肩を寄せ合って、文字通り今後の「足がかり」として素晴らしい成果を残した。会議の初めこそ、英語力に勝り、アクティブなプレゼンテーションに慣れた西欧諸国の既参加青年が発言のほとんどを支配し、アジア参加青年の沈黙が目立つことが多かったが、日程が進むにつれ、それぞれに個性を発揮し始めて最後はそれが見事にかみ合い始めた。現にe-mailなどの「IT」を駆使した現在の「事後活動」では、ゆっくりと考え、議論を消化していたアジア参加青年が逆にイニシアチブを取っている。

全員「にっぽん丸」出身ということで余計な遠慮がなかったのもよかった。一堂に会した瞬間(一緒に乗船した仲間はやはり特別だが)広い意

味で皆、家族だと感じ、はじめから連帯感があった。これは、約2週間という限られた時間の中で大きなテーマに向かって議論するにあたって限りなく大きな利点であった。もし「にっぽん丸」がなければ、僕らの貴重な2週間はまったく違ったものになっていただろう。

ルネッサンスの、僕らの本当の挑戦はまだまだこれからだ。これから多くの人を巻き込んで、力強く計画を実行に移していきたいと思う。

最後に、僕らヤングリーダーズに出会いの場を提供してくれた日本政府、そして「船出」を成功に導いてくださった事務局のスタッフのみなさん、とりわけ酒井昇さんとコーディネーターの川上和久先生には最大限の感謝を表したい。

ヤングリーダーズ・フォーラム

ITグループオフィシャルホームページ

[http://www.geocities.com/ren2001\\_it/](http://www.geocities.com/ren2001_it/)



## 国際交流学習会

# 「世界青年の船」参加青年を受け入れて

新宿区立四谷第一小学校長  
新宿区国際理解教育委員長

小野 清二



▲ 外国青年に内容説明をする筆者

「日本の子供たちは、かわいくて親切でした。」  
「人なっつい顔は、日本のすばらしい思い出です。」  
「いつか、きっと、また訪れたいです。」

これは、先日、本校を訪れた「世界青年の船」事業の参加青年の感想です。青年たちは、児童とのさまざまな交流に心から満足し、その出会いに、それぞれの感動を全身で表していました。子供たちは、何日も前から準備し、訪問日を心待ちにし、当日は、嬉しさと興奮と感動の中で一日を過ごしました。

国際理解の根本は、人間理解であり、人間理解は肌と肌の触れ合いを通して、お互いを理解し、そのやさしさに触れ、感動する心を育てることで、人のやさしさに感動する人間は、必ずや豊か

な心の持ち主として成長するに違いありません。

本校は、平成7年度より学校教育の柱に「国際理解教育の推進」を掲げて、取り組んできました。国際理解教育のねらいは、(1)人間理解、(2)異文化理解、(3)コミュニケーション能力の育成です。(1)は、お互いの違いを認め、尊重すると共にその良さに気づき、高め合おうとする態度や、人種、民族、性別で差別や偏見を持たず、お互いを大切に人権尊重の精神の育成が中心となります。世界の国々との交流が中心となるのはそのためであり、「助青少年国際交流推進センター」の協力で、毎年様々な交流が体験できるのは児童にとっ



でも大きなプラスとなっています。(2)の異文化理解の学習は、普段の学習と共に、「世界青年の船」の参加青年との交流が、大きく役立っています。(3)のコミュニケーション能力の育成は、英語を中心とした会話学習の習得によって、より理解が深まるという観点から生きた英語を学ぶことであり、「青年の船」の参加青年との交流で、学んだことを試す機会として効果をあげています。いずれにしても、本校の教育活動のねらいを達成するために、本財団の協力を得て、青年たちとの交流会が実施できることに心から感謝しているところです。

しかしながら、毎年、交流会が終わると、児童が記念写真やスナップ写真に手紙をつけて送るのですが、返信が少なく、交流がなかなか継続しないのは寂しい限りです。いかに持続的な交流ができるかが今後の課題となるでしょう。



▲ 子供たちと新宿御苑で野外調査をする外国青年



## 東南アジアフェスティバル開催

宮城青年国際交流機構副会長 堀川 優子

(第5回国際青年育成交流参加青年)

本年度の「東南アジア青年の船」受け入れを控えた8月25日、宮城 IYEO では東南アジアフェスティバルを開催しました。開催の目的は「東南アジアの船」受け入れ前にホストファミリーの人たちに少しでも東南アジアのことを知ってもらい、受け入れでは楽しい思い出を作ってもらいたいという気持ちからです。宮城 IYEO では独自のプログラムを開催するのが久しぶりということである戸惑いもありましたが、無事開催することができましたので報告したいと思います。

今回のフェスティバルでは、ホストファミリーを引き受けてくれた家族を中心として東南アジアに興味のある方の参加を募り、在県の東南アジアの留学生を迎えて東南アジアの料理に挑戦しまし

た。挑戦した料理はインドネシアカレー、ヤムウンセンというタイ料理、ベトナム風生春巻きです。参加者をグループに分け、グループ内で一つの料理に挑戦してもらい、完成した料理をみんなで味わいました。ホストファミリーの方の中には東南アジアの料理を自分で作るのは初めてという方もおり、参加者全員が興味を持って取り組んでくださいました。「思っていた以上においしい」「こんなに簡単に作れるとは…」「はまってしまいそう…」という感想をいただきました。また食事後には留学生の方々に自分の国についての習慣、宗教、文化などについてお話していただき、質問にも答えていただきました。料理を作っている時や食事中に留学生に積極的に話しかけている方や留学生の





▲ インドネシアのメリーさん(右から3番目)を囲んでインドネシアカレーを作る



▲ カンボジアでのコーイさん(左から3番目)を囲んでヤムウンセンを作る

話を真剣なまなざしで聞いている方がおり、東南アジアの国々が少しでも身近になったのではないかと思います。

去年までは説明会のみを開き、宮城青年国際交流機構の会員が知っていることやありふれたことのみを説明していましたが、東南アジアの留学生に説明してもらうことによって、引き受けにあたって不安があった家庭の不安感を少しでも解消していただけたのではないかと考えています。また私たちも初めて聞くことがいろいろとあり、大変勉強になりました。このように事業を受け入れる前にホストファミリー同士の交流を持つことによって、ホストファミリーの横のつながりができること、ホストファミリーを何度か体験したことがある家庭が初めての家庭にアドバイスできること、成功談や失敗談をお互いに共有することができることなど今まで気付かなかったことを発見するこ

とができたのはとても良かったと思います。

ホストファミリーの横のつながりができたことなどは東南アジアフェスティバルの開催を企画した時には思いもつかなかったことであり、このようなフェスティバルを開催して良かったと考えています。ただ夏休みということもあり、「東南アジア青年の船」事業に参加するすべての国の留学生を呼ぶことができず、満足し切れなかった家族もあるのではないかと思います。その点は来年度の活動への反省点として、今後もこのような宮城青年国際交流機構独自の活動を積極的に行っていきたいと思っています。

追記：先日のブルネイでのバス事故で負傷した方々の1日も早い回復と、亡くなった皆様方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## From Kobe with love!!

### ～ 第5回「青年の船」30周年記念大会報告 ～

高谷 敏

(第5回「青年の船」参加者)

#### 〈30周年記念大会開催〉

猛暑が続く8月25日(土)～26日(日)、明石海峡大橋が正面に眺望できるホテル舞子ビラ神戸で、第5回「青年の船」30周年記念大会が開催された。当時の日本の工業技術を世界にPRするために建造された国際見本市船を改造したあの有名な「さくら丸」で、1971年9月～11月の約2か月かけて東南アジア6か国(タイ、マレーシア、ビルマ、セイロン、シンガポール、中華民国)を歴訪した、福田団長をはじめ、教官、管理部の職員、海外団員4人を含め全国津々浦々からの団員、総勢100人が集った。真っ白で雄大な明石海峡大橋を臨み、有栖川宮別邸の姫小松の美しい庭園に囲まれたこの舞子ビラは解団式をした場所である。

#### 〈受付風景〉

午後1時からホテルの入り口で受付が始まった。何人かが受付をしているが、皆30年前の風貌とは異なり、かなり貫禄がでてきている。頼りになるのは受付名簿と、微かな記憶だけ。遠目に彼女は確かAさん?。しかし、名前がすぐには思い出せない。名簿で確認して「や～、Aさん久しぶり、元気?」と一挙に30年前に戻るから不思議だ。同じ釜の飯を食った仲間とは、この様にすばらしいものかと意識を新たにする。受付が済んだ人達が差し入れの栄養ドリンクを片手に、汗を拭きながら談笑している。青春時代にタイムスリップ

した仲間の輪が、ロビーに広がっている。まもなく待望の懇親会の開会だ。

#### 〈開会式〉

いよいよ開会。あの懐かしい青年の船の団歌が流れ、船内活動等のスライドが映し出される中、全員が入場着席。物故者に黙祷をささげた後、神戸大会世話人代表である私の30年ぶりの再会を喜ぶ開会挨拶。続いて福田団長の当時を振り返りながらの挨拶に、全員が感動した。特に昭和46年当時、鎖国状態にあったビルマに世界で初めて我々青年の船が訪問したこと「さくら丸」にエンジントラブルがあり、その時船長がどう決断したかのエピソード等、今だから話しができるといった内容に深く感銘した。

#### 〈歓談〉

乾杯の発声を待ちわびる中、管理部木曾さんの発声で全員乾杯。各テーブルごとに歓談が始まった。30年ぶりに会う仲間に肩書きは関係ない。5～6分も経たない内に、一挙に会話の花が咲き誇り、料理やアルコールに手をやる間もおしむ程の弾みようだ。そして、テーブル間の移動が始まった。さらにカメラのフラッシュが続く。こうなると女性のパワー満開である。2時間半の予定時間が一瞬にして過ぎ去ってしまった。何か前座が終わり、今から本番の懇親会が始まろうとする気配である。

### 〈閉会式〉

今回の35周年大会は、山口県に決定。今回世話人の松本さんから、次回の山口県世話人代表に貴重な団員名簿の入ったフロッピーを手渡し、引継ぎ式は無事終了。続いて全員で記念撮影の後、次回も再会する堅い絆を確認し、30周年記念大会は中締めとなった。

### 〈本番〉

各部屋に場所が変わり、持ち寄りの郷土名物の酒肴等で懇親会が再会。いよいよ佳境に入り、思いつく話が出た様子はみなさまのご想像におまかせいたします。われらの福田団長も各部屋まわりで睡眠時間がほとんど無かったそうな……。

### 〈お礼〉

多数のみなさまにお集まりいただき、大変充実した記念大会に盛り上がりました。本当にありがとうございました。本紙面をお借りし心より厚くお礼申し上げます。

From Kobe with love!!

(第5回「青年の船」30周年記念大会世話人一同)

### 〈お礼状から抜粋〉

\*30周年記念大会は今年の夏のハイライトでした。大成功おめでとう。働き盛りのみなさんから、また元気を頂いた思いです。5年後の山口大会で再びお会いできるよう、健康管理につとめます。(福田垂穂団長)

\*福田団長がことのほかお元気であったこと、誠に嬉しかったです。しかし、教官が私1人でちょっぴり淋しい気がしました。(宮本 一先生)

\*2泊3日の旅を200%満足させていただきました。(加納義譲さん)

\*利害なきエネルギー個性派集団?そしてその一員であることに自己満足し、誇りを持ち続けているのは決して私だけではないでしょう。

(奥西伊佐男さん)

\*夢のようで、楽しかった余韻が心地よく残っています。(塩 ますみさん)

\*姉が大好きだった神戸を訪れ、姉を想いつつ素敵な時を過ごすことができました。

(井熊 泉さん、故井熊けい子班長の妹)等々



## 坂本 達 講演会

### 「旅する自転車、100万回のありがとう」

～4年3ヶ月も有給休暇をもらって 世界一周5万5000キロを走ってきちゃった男～

一人の会社員が自転車で世界を旅した、そんな夢の実現を綴った感動のフォトエッセイ『やった。』の著者であり、第18回「東南アジア青年の船」既参加青年である坂本達さんの講演を青少年国際理解セミナーとして開催します。

本誌5月、7月号でも彼の旅の記録の一部を紹介してもらいましたが、「夢」を実現した彼の思いを直接知る機会となるこの企画が、多くの方々への「元気!」「夢」そして新たな「出会いの場」になればと願っております。

(坂本さんは、現在勤務のかたわら全国の学校などで講演活動を続ける中、著書『やった。』の印税により、走行中お世話になったアフリカの村などに井戸・学校建設の計画を進めています。)

#### 〈概要〉

青少年国際理解セミナー

## 坂本 達 講演会

### 「旅する自転車、100万回のありがとう」

～4年3ヶ月も有給休暇をもらって 世界一周5万5000キロを走ってきちゃった男～

\*スライド上映も交えて楽しいお話しです。人と人のコミュニケーションのあり方を共に考えましょう。

会 場：東京全日空ホテル B1「ギャラクシー」

東京都港区赤坂1-12-33 TEL. 03-3505-1155

最 寄 駅：営団地下鉄 銀座線、南北線 「溜池山王駅」13番出口徒歩2分

期 日：平成14年3月30日(土)

講演時間：10:00～11:50(開場9:30)

参加費：1,000円(ティーサービス付)

\*ティーサービスは、9:30から10:00までとなります。

申し込み方法：郵送、FAX又はメールにて、平成14年3月27日までに(住所、氏名、電話、FAX又はメールのいずれか、事業参加者の方は既参加事業名)を記載の上、下記へお申し込み下さい。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 セミナー係

TEL. 03-3249-0767 FAX. 03-3639-2436 e-mail: seminar@iyeo.or.jp



〈坂本 達からのメッセージ〉

世界43カ国の「自転車ならではの」の出会い——アフリカの村では自転車で来ていることがわかると、村長自らがもてなしてくれた。命を救ってくれた電気もない村のギニア人医師は、一銭も受け取ってくれなかった。イラン南東部の砂漠では54℃、冬のチベットではマイナス30℃を経験した。パタゴニアでは爆風の中、地平線に沈む激しい夕日を眺めながら毎日キャンプした。風やサボテンとも話をした。アンデス山脈では高山病に倒れていたところを、奇跡的に州知事に助けられた。

物はなくても素朴な思いやりに満ちた人たちに助けられ、励まされてやってこられた。

太陽が昇り、また沈むといった大自然の偉大な営みは、小さなことにとられる自分を一喝してくれた。ペダルをこいで出会った、厳しくて優しい母なる大地の懐。4年3ヶ月は夢のように過ぎた。つらい思い出など一つもない。地球上の人と大自然が味方してくれ、5万5千キロを走り切ることができた。一人なのに一人じゃない、そんな感動に包まれ、「感謝」というあたり前のことを心に深く刻み込んでくれた……。

生きていれば困難があっても当たり前、人はどんな環境にあっても前向きに生きていくしかない、これが世界中を走って見てきた真実です。長引く不況に同時多発テロ、幼児虐待など暗いニュースが多い世の中ですが、私たちも前を向いて今を生きていくしかありません。奇跡的に夢が実現でき、今の自分がある。世界中の人に「生かされてきた」ことへの感謝をこめて「100万回のありがとう」、そんな気持ちをお伝えし、新たな年に大きな夢と希望と一緒に抱いていければと願っています。

〈プロフィール〉

URL: <http://www.mikihouse.co.jp/tatsu>

坂本 達〔さかもと たつ〕 33歳 出身地…東京都

7～10歳 父親の仕事の関係でフランスに住む

1991年 第18回「東南アジア青年の船」事業（内閣府）参加

1992年3月 早稲田大学政治経済学部卒業

1992年4月 株式会社ミキハウス（大阪府八尾市）入社

1995年9月～1999年12月

4年3ヶ月間、自転車による「単独世界一周」

2000年1月 株式会社ミキハウス 社長室人事に復職

2000年8月 東京 神田 オリンパスホールにて写真展開催

2001年1月 自転車世界一周のフォトエッセイ『やった。』を発刊

2001年9月 札幌北海道電力 エレナードギャラリーにて写真展開催

現在 勤務のかたわら講演活動を続け、著書『やった。』の印税で、走行中お世話に

なったアフリカの村などに井戸・学校建設を計画中

以上

## 平成13年度 内閣府青年国際交流事業 事業報告会

今年度も下記3事業が終了し、参加青年たちは報告会に向けて実行委員を募り、準備をすすめています。既参加青年の皆さまだけでなく、これから事業に参加しようと考えている方、国際交流事業に興味がある方、友人や知り合いなどを誘って、是非ご参加ください。3事業それぞれに工夫が凝らされており、見ごたえ充分です。

事業名	開催日	開催場所/時間	参加費
「国際青年育成交流」事業 「日中・日韓青年親善交流」事業	2002年2月3日(日)	国立オリンピック記念 青少年総合センター  13:00～16:30 (予定)	無料
第28回「東南アジア青年の船」事業	2002年2月17日(日)		
第14回「世界青年の船」事業	2002年3月3日(日)		

### 【申込み方法】

参加をご希望される方は、お名前、参加希望事業名、参加事業/紹介者、連絡先をご記入の上、下記の問い合わせ先まで郵送、電話、FAX、E-mailにてお申込みください。

#### 〈お問い合わせ先〉

〒130-0013

東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

財青少年国際交流推進センター 「〇月〇日事業報告会係」

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436 E-mail: hq@iyeo.or.jp



## 平成 13 年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）について

今年度ブロック大会も残すところあと 3 ブロックとなりました。奮ってご参加頂き、IYEO の地域活動を更に盛り上げていただきたいと思います。

### 中国ブロック大会 (1月19日～20日)

開催地	広島県広島市 アステールプラザ（広島市国際青年会館）
テーマ	「創 じゃけえ」
主な内容	ワークショップ「みんなで創ろう〇〇の秘伝書」 交流会 体験ツアー（お好み焼き作り、神楽体験、宮島焼き絵付等）
参加費	全日程参加：10,000 円（体験ツアー代金含む） 19日（土）のみ参加：5,000 円（宿泊なし）
問合せ先	実行委員長：峠 恭雄（たお やすお） TEL/FAX：082-263-4264 E-Mail： <a href="mailto:taoy@mocha.ocn.ne.jp">taoy@mocha.ocn.ne.jp</a>



### 四国ブロック大会 (1月26日～27日)

開催地	愛媛県松山市 コムズ（26日）、えひめ共済会館（27日）
主な内容	帰国報告会 クッキングパーティー（懇親会） 各県 IYEO による活動 PR ディスカッション
参加費	宿泊者：大人 10,000 円 小人 5,000 円 宿泊なし：大人 5,000 円 27日のみの参加：無料
申込〆切	平成 14 年 1 月 12 日（土）
問合せ先	実行委員：武内 由香里（たけうち ゆかり） TEL：090-3183-4258 E-Mail： <a href="mailto:yukari@ehime-np.co.jp">yukari@ehime-np.co.jp</a>



近畿ブロック大会（1月26日、27日 京都市コミュニティ嵯峨野にて開催）につきましては前号マクロコズム（Vol. 43）19 ページをご参照下さい。

## SIGA Japan 日程変更のお知らせ

来年度に予定されている SIGA の日程が**変更**となりました。

= 新しい日程：平成 14 年 5 月 9 日（木）～12 日（日）=  
《3 泊 4 日》

- \* プログラム内容や申込み方法などの詳細については、IYEO 事務局へ直接お問合せください。
- \* 実行委員、ロゴ作成者も募集しています！



<問合せ先>

**IYEO 事務局** Tel: 03-3249-0767 Fax: 03-3639-2436

E-Mail : [siga@iyeo.or.jp](mailto:siga@iyeo.or.jp) Homepage URL: <http://www.iyeo.or.jp/sigajapan>

担当：赤澤 美雪・渡辺 ゆり恵

### 編集後記

明けましておめでとうございます。第 14 回「世界青年の船」も無事帰国しました。21 世紀幕開けの昨年は、世界的にも、内閣府青年国際交流

事業にとっても厳しい年でした。平和の大切さと命の重さを思い知らされた一年でもありました。その思いを無駄にすることなく前進を！

- \* 本誌の年間講読をご希望の方は、**青少年国際交流推進センター**まで葉書又は FAX にてお申込み下さい。年間講読料は 1,500 円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 1月号 Vol.44 2002年1月1日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail [hq@iyeo.or.jp](mailto:hq@iyeo.or.jp)

URL <http://www.iyeo.or.jp>

編集協力：内閣府政策統括官  
(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価：198 円 (本体 189 円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

経済

〔国民生活の基盤たる経済のあり様をしっかりと理解したいものです。〕



◀ 東京ガス「根岸工場」／液化ガスで凍った花に触る外国青年（世界船）



▼ 全日空機体メンテナンスセンター（東ア船）



▲ JR東日本本社への訪問。東京駅探訪？（東ア船）



政治

〔安定した国民生活には、信頼のおける政治が必要です。〕

国会見学と若手政治家との懇談（東ア船）▶

# 感動航海 にっぽん丸



撮影：佐藤秀明

## 春の屋久島クルーズ

2002年4月23日(火)~4月25日(木)/3日間 神戸/屋久島/神戸

## 日本一周クルーズ

**Aコース** 神戸発着：2002年4月26日(金)~5月5日(日)/10日間 **Bコース** 東京発・横浜着：2002年4月27日(土)~5月6日(月)/10日間  
神戸/東京/青森/富山新港/境港/博多/神戸/横浜 ※区間クルーズもごさいます。詳しくはお問い合わせください。

## 薫風の函館・新潟クルーズ

2002年5月7日(火)~5月10日(金)/4日間 横浜/函館/新潟

## 京都・舞鶴ウイークエンドクルーズ

2002年5月10日(金)~5月12日(日)/3日間 新潟/舞鶴/新潟

## 駿河湾と鹿島クルーズ

2002年5月16日(木)~5月19日(日)/4日間 大阪/清水/鹿島/大阪

●大人お一人様(消費税込み) 78,000円~284,000円

●大人お一人様(消費税込み) 123,000円~1,420,000円

●大人お一人様(消費税込み) 93,600円~426,000円  
(熟年割引)

●大人お一人様(消費税込み) 73,800円~302,000円  
(熟年割引)

●大人お一人様(消費税込み) 102,600円~426,000円  
(熟年割引)



# 商船三井客船

〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3の6秀和紀尾井町パークビル5階  
<http://www.mopas.co.jp>

# MOPASクルーズの歴史は、 安心の歴史です。

七つの海に開かれたリゾート、クルーズには  
欲張りなほどの楽しみと、

心をやわらかくほぐす、本当のくつろぎがあります。

グルメ、ショッピング、リラクゼーション、

フィットネス、エンターテインメント、

そして大自然を感じ、悠久の歴史や文化に身を浸す…

その感動の舞台を守り続けてきたのは、

何よりもまず、安全な運航。

この伝統が、MOPASのクルーズに

安心と快適を産み出してきました。

安心は今、海の上にあります。

そろそろ、クルーズはいかがですか。

## 陽光の伊勢志摩クルーズ

2002年5月20日(月)～5月22日(水)／3日間 横浜／鳥羽／横浜

●大人お一人様(消費税込み) 72,000円～284,000円

## 新緑のみちのく大船渡・仙台クルーズ

2002年5月23日(木)～5月26日(日)／4日間 名古屋／大船渡／仙台／名古屋

●大人お一人様(消費税込み) 96,000円～426,000円

## 遣唐使の道 寧波・上海クルーズ

2002年5月27日(月)～6月4日(火)／9日間 東京／北倫(寧波)／上海／神戸

●大人お一人様 278,000円～1,136,000円

## 夏のアラスカ・ハワイクルーズ

東京発着 2002年6月6日(木)～7月17日(水)／42日間 神戸発着 2002年6月5日(水)～7月18日(木)／44日間  
神戸／東京／ダッチハーバー／コディアック／スワード／シトカ／ケチカン／バンクーバー／ビクトリア／シアトル／  
ロサンゼルス／サンフランシスコ／ホノルル／ミッドウェイ／東京／神戸

●大人お一人様 1,280,000円～5,280,000円

## 2003年世界一周クルーズ

東京発着 2003年4月4日(金)～7月14日(月)／102日間 神戸発着 2003年4月5日(土)～7月15日(火)／102日間

●大人お一人様 3,400,000円～11,400,000円

※早期申込割引：2002年6月28日迄

お申し込み・お問い合わせは  
お近くの旅行会社または  
商船三井客船クルーズデスクへ



**0120-791-211**  
フリーダイヤル MOPASは商船三井客船の愛称です。

チャータークルーズのお問い合わせは  
(03) 5211-5221



行ってらっしゃい、  
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。  
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

—— 旅のすべてを知っている東急観光です。 ——



豊かな感動のステージへ——  
**東急観光**

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員  
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号  
<http://tour.tokyu.com>